

## 新型コロナ・ウイルス感染症への対応

世界的な新型コロナ・ウイルス感染症(以下、COVID-19)の問題が顕在化した2020年以降、日本でも断続的に政府の緊急事態宣言や県単位の非常事態宣言などが発出されてきた。前号では、この未知の事態に教職課程としていかに対応したかを記録するため、2021年1月10日までの全国の動向と朝日大学の対応について報告した。

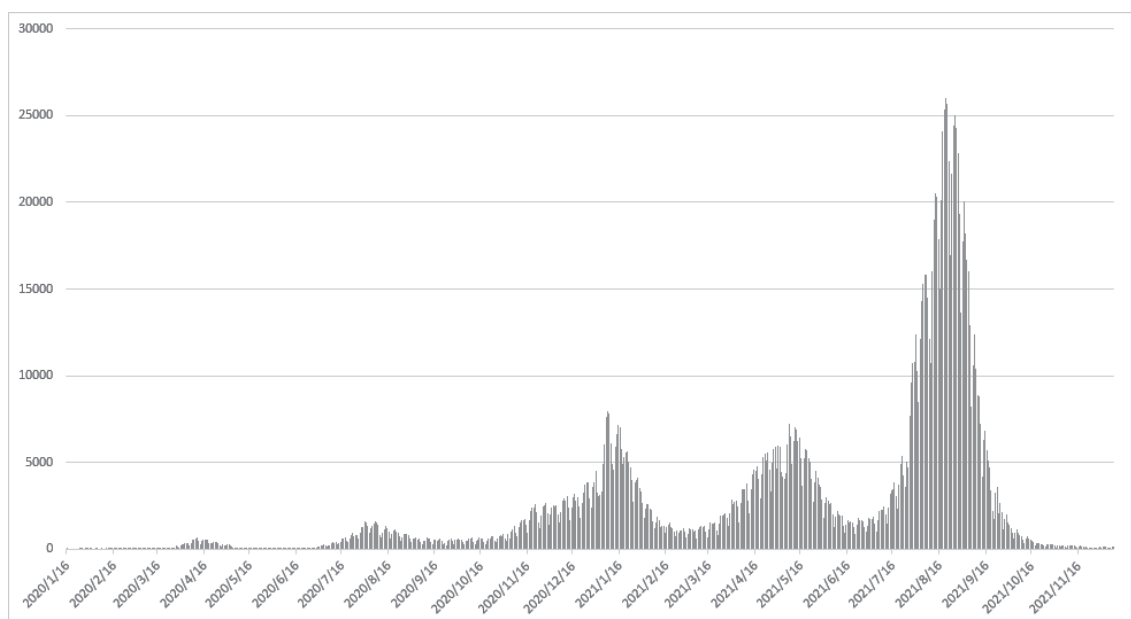
その後も全国の新規感染者数は増減を繰り返し、本稿執筆中の2021年12月10日現在、東京都や大阪府などの大都市圏を中心に深刻な医療提供体制の危機をもたらしたいわゆる「第五波」が急速に収束し、小康状態にある。とはいえ、海外に目を転じると感染拡大が続く国や地域も多く、また、11月下旬には感染力が強くワクチンにも耐性があるのではないかと懸念される新たな変異株(オミクロン株)の報告がなされ

るなど、予断を許さない状況が続いている。

朝日大学は、2021年度、入学式を全学ではなく各学部学科によって執り行なったり、感染拡大の状況に応じて対面授業とオンライン/オンデマンド授業を切り替えたりするなど、全体として柔軟に対応してきた。教職課程にかかる授業も上述した全学の動きと歩調を合わせながら実施された。

教育実習に関しては多くの教職課程履修学生が教育実習校から延期の連絡を受けることとなった。また、実習期間が短縮されたり、実習自体が中止となったりした場合には、前年度と同様、文部科学省(以下、文科省)総合教育政策局長が2020年8月11日に示した指針に沿って、特別支援教育論への受講および学修課題への取組、教育実習指導ⅠおよびⅡにおける追加のレポートの作成、模擬授業2回分の実践を課した。なお、短縮となったのは2名、中止は2名であった。

2020年1月16日から2021年12月9日までの国内の新規感染者数の推移(1日ごと発表数)



※NHK 特設サイトより作成 (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/>)

#### 法学科学生の実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	社会	5月中旬～	変更なし
岐阜	社会	5月下旬～	変更なし
岐阜	社会	5月下旬～	変更なし
岐阜	地歴	6月初旬～	変更なし
岐阜	公民	5月下旬～	変更なし
石川	公民	5月下旬～	中止
愛知	社会	5月下旬～	変更なし
熊本	社会	9月下旬～	変更なし
沖縄	社会	9月初旬～	変更なし

#### 経営学科学生の実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	商業	5月下旬～	変更なし
岐阜	商業	5月下旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
岐阜	商業	6月上旬～	変更なし
福井	商業	6月上旬～	変更なし

#### 健康スポーツ科学科学生の実習期間

実習地	教科	当初予定	実習期間
岐阜	保体	5月下旬～	変更なし
岐阜	保体	5月下旬～	変更なし
岐阜	保体	5月下旬～	変更なし
岐阜	保体	5月下旬～	5月下旬～
岐阜	保体	5月下旬～	5月下旬～
岐阜	保体	5月下旬～	5月下旬～
岐阜	保体	6月上旬～	変更なし
岐阜	保体	6月上旬～	変更なし
岐阜	保体	6月上旬～	変更なし
岐阜	保体	6月上旬～	変更なし
岐阜	保体	6月上旬～	10月下旬～

岐阜	保体	6月中旬～	変更なし
岐阜	保体	10月下旬～	変更なし
北海道	保体	10月上旬～	中止
秋田	保体	8月下旬～	9月上旬～
山梨	保体	5月下旬～	変更なし
富山	保体	6月上旬～	11月上旬～
愛知	保体	5月下旬～	9月下旬～
愛知	保体	6月下旬～	変更なし
滋賀	保体	5月下旬～	短縮・5月下旬～
滋賀	保体	10月上旬～	変更なし
兵庫	保体	5月中旬～	変更なし
島根	保体	5月中旬～	変更なし
岡山	保体	5月下旬～	短縮・9月下旬～
広島	保体	6月上旬～	変更なし
山口	保体	5月下旬～	9月下旬～
福岡	保体	5月下旬～	変更なし
福岡	保体	5月下旬～	9月下旬～
熊本	保体	5月下旬～	9月上旬～
熊本	保体	6月上旬～	7月上旬～
鹿児島	保体	5月中旬～	9月上旬～
沖縄	保体	5月中旬～	5月下旬～
沖縄	保体	5月下旬～	変更なし
沖縄	保体	5月下旬～	6月下旬～

教育実習生に対する訪問指導は、主に岐阜県もしくは近隣県の実習校で、当該実習校の許可が得られる限りにおいて実施した。また、特に手厚い配慮や支援が必要と思われる場合や、入学生の募集上重要と認められる場合にも行なった。

特別支援学校体験（2日間）と社会福祉施設体験（5日間）とで構成される介護等体験では、前年度とほぼ同様の措置や対応が取られることとなった。

特別支援学校体験については、岐阜県教

育委員会から朝日大学宛に 5 月 11 日に電子メールで実施要領が送付されてきた。これを受け、朝日大学教職課程 Moodle を活用して希望する学校と日程を学生に五つ回答させて、予め割り当てられている定員に収まるよう調整を図ったうえで 6 月中旬に結果をとりまとめて教育委員会に申請した。

実際の体験は、体験校の判断によってオンラインと実地とに分かれた。長良特別支援学校（9 月 7・8 日および 15・16 日）、本巣特別支援学校（12 月 1・2 日）、可茂特別支援学校（12 月 1・2 日）からは、Cisco Webex Meetings によるオンライン体験とする旨連絡があったため、該当する学生を教職課程センターや図書館分室に集合させ、感染防止対策を徹底したうえで電子黒板やタブレット端末を活用して取り組ませた。他方で、実地による体験校には教職課程担当教員が個別に電話をかけ、許可が降りる限りにおいて訪問指導を行なった。

社会福祉施設体験は、岐阜県社会福祉協議会から 4 月 15 日付で中止とするとの通知があった。そこで前述の 2020 年 8 月 11 日付通知を踏まえ、国立特別支援教育総合研究所が開設する免許法認定通信教育の科目に係る印刷教材を用いて学修に取り組みせ、10 月 31 日までにレポートを提出させた。上述の代替措置に関する学生への連絡は、朝日大学が運用している教務支援システム Universal Passport 上で 5 月 21 日に行なった。

## 第 5 期中学生財務塾

第 5 期中学生財務塾は、例年通りであれば、2020 年 5 月から開講される予定であっ



教師側の設備（コンピュータ・書画カメラ）

たが、COVID-19 の感染がどこまで拡大するか容易には見通せない状況が続いたため、8 月 22 日まで延期された。前号で詳細に報告した朝日大学全体としての対応方針に従いつつ、対面ではなくオンラインかつリアルタイムの形式で実施した。生徒募集の広報が遅れたこともあって応募者は減少したが、5 名（中学 3 年生 3 名、2 年生 2 名）の参加者を得ることができた。そのうち 1 名は第 4 期から受講を継続した者である。

コンピュータに接続した書画カメラの映像を Zoom によるオンライン・ミーティングの画面共有機能によって配信しながら授業を進めたが、その最大の難点は、画面の向こうで個々の生徒がどのようにノートを書いているか、どの程度理解できているか、十分に把握できないことであった。その一方で、全てオンラインかつリアルタイムで開講したため、効率的に授業を進めることができたようにも思われる。

全商簿記実務検定試験 3 級を 5 名が受験し、4 名が合格した。加えて、商業科には進学しなかったものの学習課題には取り組み続けてきた過去の受講者のなかから日商簿記検定試験 2 級に合格する者が 1 名現れたことは特筆すべきことであろう。

2020 年度中学生財務塾全日程

回	月 日	開始	開講形態
1	8 月 22 日	19:00	オンライン
2	8 月 29 日	19:00	オンライン
3	9 月 5 日	19:00	オンライン
4	9 月 9 日	19:00	オンライン
5	9 月 19 日	19:00	オンライン
6	9 月 26 日	19:00	オンライン
7	10 月 3 日	19:00	オンライン
8	10 月 10 日	19:00	オンライン
9	10 月 17 日	19:00	オンライン
10	10 月 24 日	19:00	オンライン
11	11 月 7 日	19:00	オンライン
12	11 月 14 日	19:00	オンライン
13	11 月 21 日	19:00	オンライン
14	11 月 28 日	19:00	オンライン
15	12 月 5 日	19:00	オンライン
16	12 月 12 日	19:00	オンライン
17	12 月 19 日	19:00	オンライン
18	1 月 6 日	19:00	オンライン
19	1 月 20 日	19:00	オンライン
20	1 月 27 日	19:00	オンライン
21	2 月 3 日	19:00	オンライン
22	2 月 10 日	19:00	オンライン
23	2 月 20 日	19:00	オンライン
24	2 月 24 日	19:00	オンライン
25	3 月 3 日	19:00	オンライン
26	3 月 10 日	19:00	オンライン
27	3 月 17 日	19:00	オンライン
28	3 月 24 日	9:00	オンライン
29	3 月 31 日	19:00	オンライン
30	4 月 7 日	19:00	オンライン
31	4 月 14 日	19:00	オンライン
32	4 月 21 日	19:00	オンライン
33	4 月 28 日	9:00	オンライン
34	5 月 7 日	19:00	オンライン

35	5 月 12 日	13:00	オンライン
36	5 月 19 日	19:00	オンライン
37	5 月 26 日	19:00	オンライン
38	6 月 2 日	19:00	オンライン
39	6 月 9 日	19:00	オンライン
40	6 月 16 日	19:00	オンライン

## 高大連携・接続によるアクティブ・ラーニング研究会

第 7 回研究会は、直前に緊急事態宣言および岐阜県独自の非常事態宣言が発令されたため、当初予定していたハイブリッド型を断念し、完全オンライン型で開催することとなった。当日は、三重県立宇治山田商業高等学校教諭の児玉靖明氏による英語科の授業づくりについて教育実践の事例に基づく具体的な提案をいただき、活発な議論が展開された。岐阜県内の英語科教員を中心に全体を通じて 32 名の参加があった。

第 8 回では、朝日大学関係者は会場参加、学外者はオンライン参加とするハイブリッド型が実現した。三重県内の公立高等学校で教育の実践と研究に従事され、現在はユマニテク短期大学附属教育研究所副所長として務めておられる鈴木達哉氏に来学いただき、キャリア教育の観点から見たアクティブ・ラーニングの意義について提起いただいたうえで、会場参加者とオンライン参加者として議論や教育実践交流を行なった。朝日大学の教職課程履修学生も含めて過去最多となる 59 名の参加者を得て大盛況となった。

上述した研究会の内容や様子の詳細については、末尾に付した研究会通信においても報告してあるので参照されたい。

## 朝日大学エクステンション・カレッジ

2021 年度の朝日大学エクステンション・カレッジは、岐阜県が 1 月 14 日に政府の緊急事態宣言の対象地域となったため、前期の開講が危ぶまれた。同宣言は 2 月 28 日に解除されたものの 4 月 23 日には岐阜県独自の非常事態宣言が発令された。学外の会場として予定していたハートフルスクエア G は閉鎖されなかったため、感染症対策の徹底を図りつつ前期の講座を開始した。

だが、5 月 9 日、岐阜県にまん延防止等重点措置が適用されるとハートフルスクエア G は使用不可となった。同月 29 日から予定していた「海外における貨幣調査」、「学び舎の歴史」、「ラテンアメリカ文化を知ろう」の 3 講座は中止せざるを得なくなった。

まん延防止等重点措置は 6 月 20 日に解除されたため、その他の講座は日程を変更したり延期したりしながら継続した。8 月 20 日、岐阜県に再びまん延防止等重点措置が適用、ハートフルスクエア G は閉鎖、8

2021 年度朝日大学エクステンション・カレッジ開講実績

講座名	講師	前期			後期		
		会場	回数	人数	会場	回数	人数
学び直し世界の歴史（午前の部）	虫賀	ハートフルスクエア G	3	22			
学び直し世界の歴史（午後の部）	虫賀	ハートフルスクエア G	3	27			
新しい英語の授業づくり	亀谷	ハートフルスクエア G	1	3			
海外における貨幣調査	櫻木	ハートフルスクエア G	中止	0(2)			
学び舎の歴史	豊田	ハートフルスクエア G	中止	0(2)			
簿記基礎	服部	朝日大学	5	8			
自分の Web ページを作ろう	山本	朝日大学	3	8			
ポジティブ心理学入門	亀田	ハートフルスクエア G	5	25	朝日大学	5	21(5)
教育勅語について考える	足立	ハートフルスクエア G	2	5	朝日大学	3	6(3)
ラテンアメリカ文化を知ろう	新井	ハートフルスクエア G	中止	0(7)	朝日大学	2	9(2)
古文書講座	山下	朝日大学	5	24	朝日大学	5	22
哲学の世界への誘い	巽	朝日大学	5	10	朝日大学	5	13
吹奏楽の楽しみ	和田	朝日大学	3	2	朝日大学	3	2
「生きる力」を育むスポーツ指導	高橋	朝日大学	2	1	朝日大学	2	1
学び直し世界の歴史	虫賀				朝日大学	5	22(3)
Enjoy TOEIC English!!	野畑				朝日大学	5	12(1)
実践 web サイト作り	山本				朝日大学	4	9
岐阜県の民俗芸能探訪	虫賀				朝日大学	1	5(3)
簿記基礎演習	服部				朝日大学	5	3
新しい時代の英語教育	亀谷				朝日大学	中止	0(4)

※後期の人数欄における（ ）内の数字は、中止や会場変更に伴う辞退者の人数



月 21 日に予定していた講座も余儀なく取り止めとなった。この間、朝日大学を会場とする講座は全て予定通り実施することができた。ハートフルスクエア G における講座の多くが COVID-19 に振り回され、延期や中止を繰り返したのとは対照的だった。

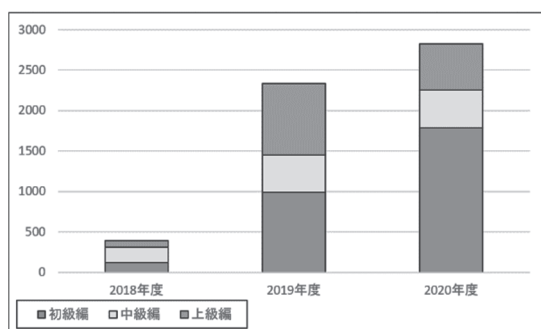
その後もハートフルスクエア G が確実に利用できる見通しが立たなかったため、後期は全講座の会場を朝日大学に変更する旨、受講予定者に 9 月下旬に一斉連絡し、それに伴う辞退者には受講料を返還する運びとなった。2021 年 12 月 10 日現在、1 日当たりの新規感染者数は減少したものの、残りの講座も全て朝日大学で開講予定である。

結果として、前期は合計 135 名（中止がなければ 146 名）、後期は 125 名（会場変更がなければ 146 名）の受講者があった。

### 教員採用試験対策指導

2017 年度に運用を開始した朝日大学教職課程 Moodle において 2018 年度中に整備された教職教養問題バンクの各年度の累積受験回数を見ると、2018 年度 391 回、2019 年度 2332 回、2020 年度 2824 回となっており、順調に増加してきている。受験者の概

各年度の教職教養問題バンクの累積受験回数



※当該年度中に学生が受験結果を確定した回数を計上

況を教職課程センター教員会議で毎月報告し、熱心に取り組んでいる者についての情報を教職員集団で共有するなど、全体の理解と士気の向上を図ってきた。

専門教養の学力向上に向けた指導の拡充が前年度までの課題であったが、2021 年度からは、教職課程 Moodle に限らず、教職志望度の高い学生を対象に専門教養の演習問題を紙媒体で配付し、進捗状況を継続的に把握するという取組が開始された。

また、卒業生も含めて、教員採用試験の一次試験を突破した者には面接の練習と講評、小論文作成のための指導などを集中的に行なった。岐阜県外に在住する卒業生に対してはオンラインによる支援も展開した。

### 朝日大学全学教職課程電子履修カルテおよび管理パネルの設計と開発

教職課程センターが 2017 年度に朝日大学全学教職課程電子履修カルテ（以下、電子履修カルテ）の開発に着手したことは既報の通りである。2020 年度からは試行版の構築に取り組んできた、2021 年 5 月上旬、経営学科、法学科、健康スポーツ学科から各 2 名ずつ合計 6 名の 2 年次教職課程履修学生を募集し、試行版の動作と有効性を確認するための学生モニタとして雇用した。

彼らを対象としてオンライン・ミーティングを 6 月 14 日に開催し、①各種機能の動作確認、②基本情報の登録、③1 年次に修得した教職課程関科目の学修成果の入力、④自主活動の記録、⑤1 年次の省察と 2 年次の目標の入力、に取り組ませた。さらに⑥作業済の電子履修カルテを指定したメール・アドレスに添付で送るよう指示した。

⑦介護等体験の参加者には体験後の学習課題を電子履修カルテ上で進め、提出することも要請した。

上述した①から⑥までの作業を全ての学生モニタが終えた後、教職員集団は、従前から運用している学内 LAN 上の共有フォルダ内に、提出された電子履修カルテを集積したうえで、教員からの各種コメントの入力、個々の学生の履修状況や所見・指導履歴の共有、情報の一括取得と一括反映、教職課程用ウェブメールを通じた一斉返却など、管理パネルの所期の機能が正常に動作するかを検証した。そして、その過程で洗い出された不具合を修正していった。

ここまでに述べた電子履修カルテおよび管理パネルの機能や仕様、動作実験と試験運用の様子や成果については、本号に実践報告として掲載したので、詳細についてはそちらも参照されたい。

その後、8月5日に電子履修カルテおよび管理パネルの導入を可とする大友克之学長の決裁が降りたことを受けて、積み残された技術的な課題に早急に取り組むこととなった。すなわち、①教職実践演習において学生に取り組ませるための学習課題の実装、②朝日大学が運用する全学の教務支援システム（GAKUEN システム）から抽出したデータと管理パネル上のデータとを照合する機能の導入、の二つである。

本稿を執筆している 2021 年 12 月 10 日現在、これらの技術的課題は既に克服されており、2022 年度新生を対象とした本格的な運用開始の条件が整いつつある。今後はシステムを実際に運用していくうえでの具体的な手続や規則の在り方について慎重に検討していく必要がある。

## 教職課程改革への対応

2021 年は、各課程認定大学が今後取り組んでいかなければならない重要な教職課程改革の具体的な内容が明らかになった年であった。特に重要と考えられるのは、教育職員免許法施行規則の一部改正に伴って 2022 年度から①教職課程自己点検評価の実施と結果の公表が義務化されたこと、また、②指導法・技法に関する科目の内容に情報通信技術の活用が導入されたこと、の二つである。以下、これらに対する教職課程センターの取組について報告したい。

まず、①に適切に対応するため、全国私立大学教職課程協会（以下、全私教協）の教職課程質保証評価に関する特別委員会がオンラインで 2021 年 10 月 8 日に開催した教職課程自己点検評価基準に関する説明会に参加した。同協会は、これまで文科省の委託を受けて私立大学における教職課程の質保障と評価の在り方について検討を進めてきた経緯がある。

全私教協が発表した教職課程自己点検評価基準と報告書作成の手引は、文科省が設置した教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議が 1 月 18 日にとりまとめたガイドラインの内容と対応している。そこで教職課程センターは、この基準と手引に則った自己点検評価報告書の作成に向けて基礎的な作業に着手したところである。

次に、②に関して述べると、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」、いわゆる「ICT 事項科目」が必修化（1 単位以上）されるとともに、各教科の指導法にも「情報通信技術の活用」を含めることが求められるようになった。前者に関しては「ICT 事

項科目」を新設するか、あるいは最低修得単位数に必要な授業時間数を既設の「教育の方法と技術」に含めて併設するか、二つの対応の仕方がある。朝日大学は併設する方向で検討中である。

## 同窓生ネットワークの構築

朝日大学に教職課程が初めて開設されたのは1989年度のことである。これまで岐阜県の内外を問わず、学校教育の現場で活躍する教員を数多く輩出してきたものの、大学をハブとして同窓生同士を繋ぐネットワークが弱いことが課題であった。

こうした課題の克服を企図して、教職課程センター長の服部哲明教授の音頭によって2021年3月18日、同窓生と教職課程センターの教員が会するオンライン・ミーティングが開催された。相互の自己紹介と顔合わせを行なう程度の簡単なものではあったが、これからも交流が続いていくことを期待させる有意義な時間となった。

今後は、同窓生の方々が直面している教育上の問題や取り組んでいる課題などを共有しながら大学側からも適切な支援を行なっていけるような環境を整備していくことが重要である。また、教職課程を履修する学生たちが、現職教員として活躍する先輩の姿を見て触発される機会を提供していく

## 同窓生のオンライン・ミーティングの様子



ことも大切であろう。

## 教職課程履修学生数と過去5年間の教員免許状の取得状況

最後に2021年度の教職課程履修学生数と過去5年間の教員免許状の取得状況について報告しておきたい。

前年度までは、新年度のために開催される教職課程ガイダンスの出席者や教育実習に向けて具体的な手続を進めている者の数を報告してきた。

2021年度からは、先述した通り電子履修カルテおよび管理パネルの試行が開始され、教職課程履修学生の動向や最新の情報を総合的に管理することが可能になった。このことを前提として、2021年12月10日現在、管理パネル上の名簿に掲載されている人数を以下に示しておく。なお、大学院生および科目等履修生で教職課程を履修している者はいなかった。

2021年度教職課程履修学生数(2021年12月10日現在)

学科	1年次	2年次	3年次	4年次	計
法学科	8	10	12	9	39
経営学科	8	6	6	7	27
健康スポーツ科学科	52	37	37	34	160
総計	68	53	55	50	226



過去 5 年間の教員免許状の取得状況 (2021 年 12 月 10 日現在)

年度	免許状の種類（教科）										合計 （件）	合計 （人）
	一種免許状						専修免許状					
	中		高				中	高				
	社会	保健 体育	地理 歴史	公民	商業	情報	社会	公民	商業	情報		
2016	14	—	13	19	15	2	0	0	0	0	63	36
2017	10	—	11	12	10	—	0	0	0	0	43	22
2018	5	—	8	4	13	—	0	0	0	0	30	22
2019	0	—	0	0	11	—	0	0	0	0	11	11
2020	1	20	6	6	4	—	0	0	0	0	66	39
合計	30	20	38	41	53	2	0	0	0	0	213	130
開設以来累計	312	20	230	331	350	59	4	3	4	1	1455	823

# 研究会通信

第14号  
2021年2月

## 第七回研究会の様子をお伝えします

二〇二一年二月五日(金)、第七回研究会を開催いたしました。前号では、ハイブリッド型の試みとお伝えしましたが、再発出された緊急事態宣言の内容に鑑み、完全オンライン型に変更となりました。

研究会の前半では、三重県立宇治山田商業高等学校の児玉靖明先生から英語科の授業づくりについて紹介いただきました。すなわち、新学習指導要領が重視する「主体的・対話的で深い学び」の実現には言語活動の充実が必須であり、英語による言語活動を通して生徒の思考力や発信力を高めさせるにはグループ・ディスカッションが有効であるという立場から、

学習の「目標・指導・評価の一体化」について児玉先生が追究されてきた具体的な方法論について解説がなされました。具体的には、教員が協働して作成する「EYORリスト形式」の学習到達目標から学年・学期の目標、各単元の目標と評価規準、各時間の指導と評価へと落とし込んでいくこと、実際の授業では複数の技能領域を結びつけた統合的な言語活動を工夫し、英語で意見を伝え合う機会を設定することなどです。さらに参加者を六つの班に編制したうえで、生徒になったつもりで世界の識字率を主題に討議するという学習活動の体験も提供されました。



児玉先生による解説の様子

その後、実際の生徒たちが英語で意見を表明している様子を動画で確認したうえで、文法の正確性だけに重きを置くのではなく文脈に合った表現の妥当性も重視すること、教室のなかだけで完結しない自律的な学習者を育てることの重要性についても提起していただきました。

休憩を挟んで後半は、担当教科や専門分野、学校種の垣根を越えて、いわゆる「コロナ禍」のなかの教育実践について相互の取組や困難さについて率直な意見交換を行ないました。各班からは、感染症対策の徹底のなかでのペアやグループによる学習の制約、学習進度挽回のための教育活動の削減など、多くの問題が挙げられた一方で、情報機器の活用について前向きな意見も提起されました。

最後に豊田ひさき座長から全体総括として鳥飼玖美子氏らの近著『ことばの教育を問う』が紹介され、言語活動と学びの本質との密接な関連性について指摘がなされました。今回の研究会においては、岐阜県内の英語科の先生方を中心に、全体を通じて三二名の皆様にご参加いただくことができました。

## 参加者の皆様の感想と要望

研究会後に、多くの感想をお寄せいただきました。児玉先生のご提案について、議論したくなる主題、受容的な態度、話し方や文章の組み立て方まで工夫されていることが生徒の意欲や上達する喜びにつながっていくことがよくわかった。

○新学習指導要領を踏まえた具体的な解説で、授業づくりの大切なステップや評価の方法について考えることができた。

○自分の言葉で表現しようとしている生徒の姿が見られたので大変良かった。

○日本語を介さずに英語を使えるような環境づくりや授業の展開を考えていきたいと感じた。

○商業科でも転換期を迎えているが、ICT活用とともにこうした学び方が日常になるよう推進していきたいと思った。

次に、教育実践交流と要望について、  
○他の高校や大学の先生方と議論ができた大変刺激になった。  
○大学の実情を知り、進学前の生徒に伝えるべき情報を得ることができた。  
○フレイクアウト・セッションを活用した交流が良かった。  
○オンライン授業に役立つ様々なツールの紹介や、それらを活用したり活用したりする機会を研究会に設けてほしい。  
○学ぶ目標を見い出せない生徒に、いかに興味関心を持たせて学習活動を展開するかが知りたい。

## 事務局からの連絡

次回の研究会については新型コロナウイルス・ウィルスの感染状況を注視しつつ、日程形式、内容について慎重に検討中です。詳細は後日、追ってご連絡いたします。

発行：アクティブ・ラーニング研究会事務局  
事務局：朝日大学5号館服部哲明研究室内  
メール：kyousyoku@alice.asahi-u.ac.jp

建学の精神 国際未来社会を切り開く社会性と創造性。  
そして、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成する

 朝日大学

〒501-0223 岐阜県瑞穂市穂積1851  
<http://www.asahi-u.ac.jp/>

# 研究会通信

第15号  
2021年6月

## 第八回研究会を開催いたします

梅雨の蒸し暑い日が続いておりますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。第八回の研究会は、二〇二一年七月二八日(水)一四時よりオンライン・ミーティング・システムを利用してハイブリッド型の研究会として開催いたします。

講師と朝日大学関係者は会場参加、学外者はオンライン参加とし、会場の様子を配信するとともに、

・ウイルス感染症の動向は予断を許しません。こうした状況のなか、参加者の皆様に少しでも臨場感と実りのある学習の場をご提供できればとの思いから、可能な限り、ハイブリッド型研究会の実現を目指しております。

初めての試みとなりますが、岐阜県内の先生方に限らず、幅広く多くの皆様のご参加を賜ればと願っております。

第八回研究会

一三時五〇分 オンライン・ミーティング開始

一四時〇〇分 開会の挨拶

一四時一〇分 基調講演・アクティブ・ラーニングで授業がキ

一五時三〇分 プレイクアウト・セッション

一六時〇五分 全体交流

一六時三〇分 全体総括

一六時四〇分 閉会の挨拶

## 講師の紹介と第八回研究会の内容



鈴木達哉先生

第八回研究会の講師としてお招きするのは、ユマニテク短期大学附属教育研究所副所長の鈴木達哉先生です。鈴木先生は、一九八二年に三重県内の公立高等学校で教職に就かれた後、進路指導主事や校長を歴任されるなかで、キャリア教育の実践と研究に特に力を入れて取り組んで来られました。

これまで職業教育と混同されがちであったキャリア教育を、子どもたちに「将来の社会において生きる力を身に付けさせる教育」と発展的に再定義したうえで、

そうした観点から各学校の全ての教育活動を見直していくことが最も重要であるとするのが鈴木先生の基本的な立場です。そして、この立場に立てば、他者と協働しながら主体的に問題解決に取り組ませるなかで「生きる力」を育んでいくアクティブ・ラーニングを実現することは、学校生活の柱である授業をキャリア教育として見直すことに他ならないと論じていらつしやいます。

当日は、鈴木先生が長年普及に努めて来られたキャリア教育の観点から、教師と生徒が共にその必要性を理解しつつアクティブ・ラーニングを深化させていく方法論について、事例に基づいて具体的に解説いただきます。そして、新学習指導要領とアクティブ・ラーニングとの関

連性を踏まえ、今後の教師や学校の在り方についても提言をいただく予定です。

鈴木先生の基調講演の後、前回の研究会と同様、プレイクアウト・セッションと参加者全体の交流の時間も設定しております。それぞれの職場での工夫や課題などについて率直な意見交換や情報共有を図り、教育実践上の見通しを得られる有意義な時間となりますことを心から願っております。

事務局からの連絡

新しい参加者の皆様を歓迎いたします。同僚やお知り合いでアクティブ・ラーニングに興味をお持ちの方や授業づくりにお悩みの方がいらつしやれば、ぜひ、ご紹介ください。研究会のご案内をお送りいたします。

発行：アクティブ・ラーニング研究会事務局  
事務局：朝日大学5号館服部哲明研究室内  
メール：kyousyoku@alice.asahi-u.ac.jp

建学の精神 国際未来社会を切り開く社会性と創造性。  
そして、人類普遍の人間性知性に富む人間を育成する



〒501-0223 岐阜県瑞穂市穂積1851  
http://www.asahi-u.ac.jp/



# 研究会通信

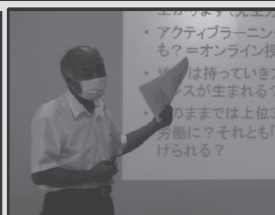
第16号  
2021年8月

## 大盛況となった第八回研究会

二〇二一年七月二十八日(水)、第八回研究会が開催されました。初のハイブリッド型の試みでしたが、五九名のご参加を賜り、大盛況となりました。まことにありと見直すべきことの必要性を提起されました。

当日は、ユマニテクス短期大学附属教育研究所副所長の鈴木達哉先生から、これからの社会の変化に対応しうる学校教育の在り方を展望しつつ、授業においてアクティブ・ラーニングを実現することの意義についてご解説いただきました。

三重県内の公立高等学校での実践と研究を経て到達された生徒に①将来の設計と見通しを持たせ、②汎用的能力を向上させるとともに、③



鈴木先生による講演

市民性を養うこと、すなわち「社会で生きる力」を育成することこそがキャリア教育であるとの立場から、鈴木先生は従来の学校教育活動を見直すことの必要性を提起されました。

その上で、各教室でアクティブ・ラーニングを実現する手がかりとして、①生徒の主体性を引き出す目標の設定、②生徒が自分の言葉で説明する時間の確保、③生徒自身が振り返る機会の保障、④テストの改善による評価の提示、の四点を示していただきました。

さらに、生徒の資質・能力を育成するために「社会に開かれた教育課程」がもたらす意義と、これからの教師が果たすべき役割について、アシリテータとして指摘いただきました。

鈴木先生の講演後は、全体をオンラインで繋ぎつつ、パンデミ



教育実践交流の様子

ックによって激変した学校教育の現場で、参加者の皆さまが直面した課題や、その克服のために行った工夫や取組について情報交換や意見交換を行いました。

最後に、豊田ひさき座長から、近代日本におけるアクティブ・ラーニングの先駆者ともいえる桑原万寿太郎と清水甚吾の授業実践が紹介され、子どもたちが持つべき概念や、教師自身も子どもとともに主体的な学びを積み重ねるなかで、より確かな概念へと鍛え直していくための道筋が示されました。

## 参加者の皆様の感想と要望

多くの感想をお寄せいただきました。感謝申し上げます。鈴木先生のご講演について、

- アクティブ・ラーニングはキャリア教育であるという言葉を活用していきたい
- 挨拶や礼儀の指導もキャリア教育という考え方に納得した
- 「学びの個別最適化」を教員の働き方改革のなかでどう実現するか、更に踏み込んで聞きたかった
- ICT活用が困難な生徒も幸せになる
- アクティブ・ラーニングの姿を考えた
- アクティブ・ラーニング型の授業がキャリア教育となり、地域連携が深い学びへと繋がっていくことが理解できた
- 今日の講演内容を校内の研修会等で先生方に伝え、教育活動を充実させたい
- 現代に求められるリーダーシップの内

容について、更に詳しく聞きたくなった。

次に、教育実践交流と要望について、

- 高校、大学の先生方、学生の方々との交流ができ、今後の教育について深く考えることができた
- 他校の課題や取組が分かり、苦しいなかでも生徒の為に頑張る仲間がいることを知ることができた
- 他校の先生方の実践例を聞き、異なる視点からアクティブ・ラーニングが学べた
- ブレイクアウト・セッションの議論をもっと全体に還元してほしいと感じた
- コロナ禍やデジタル化に関わらず、教育の根本課題は昔と変わらない、と再確認することができた

事務局からの連絡

次回の研究会については、日程、形式、内容について慎重に検討中です。詳細は後日、追ってご連絡いたします。

発行：アクティブ・ラーニング研究会事務局  
事務局：朝日大学5号館服部哲明研究室内  
メール：kyousyoku@alice.asahi-u.ac.jp

建学の精神 国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間性知性に富む人間を育成する



〒501-0223 岐阜県瑞穂市穂積1851  
http://www.asahi-u.ac.jp/